

平成24年度市町連絡会 開催結果報告

開催日時 : 平成24年9月5日(水) 13:30~16:30

場 所 : 三重県総合文化センター大会議室

参 加 者 : 市町担当課職員、地域包括支援センター職員 計62人

介護予防市町担当者会議との合同開催。

○市町村介護予防強化推進事業について

／いなべ市福祉部長寿介護課

○老人保健健康増進事業について／南伊勢町福祉課

○認知症総合対策の推進(今年度の取組)

・7月18日開催の三重県認知症施策推進会議の開催結果をご報告

・平成24年度認知症高齢者等支援に関する

各市町実態把握調査の結果を報告

・情報交換

「情報交換」における市町担当者・地域包括支援センターの主な意見

1. 認知症サポーター養成講座について

●キッズ講座の運営方法、内容

・授業の中での講座になり、大人向けの標準時間よりも短くなるため内容や説明の仕方に工夫が必要。どういう方法が正しいというものも無いので自分たちで考えながらつくることになる。

・四日市市社会福祉協議会が作成した絵本や、キャラバンメイト連絡協議会の小学生向けテキストなどを使ったり、キャラバンメイトがオリジナルの教材を作ったりして、学童保育単位で講座をした例がある。

・市内の小中学校の校長会へ相談し、小学校4年生以上と中学生を対象に開催している。小学生へは説明と寸劇をしている。

●若い世代への周知・啓発の方法

・地元の地域懇談会(消防も参加)、子育て支援センターを利用する子育て中の母親たちを対象に開催。

・既存の会合を活用する方向で。

- ・結婚式場やスーパーマーケット、行政の職員を対象に開催。若い世代に知ってもらうことは、自分の両親に対しての気付きにもなるので意味がある。
- ・あんしん見守りネットワークを構成している団体の代表者に受講してもらっている。信用金庫などローカルな企業が協力的である。

●認知症サポーター養成講座後のフォロー、地域住民主体の活動や地域づくりへつなげる方法

- ・フォローアップ研修を開催予定。認知症に関心のある人(サポーター講座受講者に限定していない)を対象に3回コースで予定。受講者の中から主になる人(リーダー)を探して、市と話し合いながら自主的な組織をつくっていきたい。活動は傾聴ボランティアなどを想定。後々に見守りネットワークへつなげたい。
- ・サポーター講座の受講者をリスト化している。サロン活動や生活支援サポーター、傾聴ボランティアへお誘いし、活動している人もいる。
- ・そもそもサポーター講座は正しい知識を持って認知症の人とその家族の理解者になりましょう、というものであるから、その受講者が全て次の活動につながるということは難しい。次の活動につなげる目的の内容で、もうひとつ踏み込んだカリキュラムの講座を考えるべきではないか。
- ・サポーター講座は正しい理解の普及であるため、次の活動が待っていることで受講者が減ってしまっは普及ができない。
- ・キャラバンメイト独自で講座が企画できるようになればいいとの思いで、キャラバンメイト連絡会を年2～3回開催している。

2. 医療と福祉の連携

●医師との連絡のとり方

- ・鈴鹿市内では「医療介護ケアシステム」を設置している。2ヶ月に1回、医師、ケアマネ、薬剤師、行政など40～50人で勉強会をしている。部会組織もあり、各々の職種で課題を抽出し勉強会で共有。ここで、医師との連絡表(要件や連絡する方法、都合などFAX等で送付)や医師名簿などのツールを作成し、医師との連絡がスムーズになった。
- ・「在宅医療研究会」を年2回開催している。地区医師会が主催で開催していたものへ市が協働。顔の見える関係づくりを目的に、事例検討では多職種が入るようにグループ分け。病院ソーシャルワーカーや病院の担当者一覧表を作成し共有している。
- ・四日市地区医師会が医師会会員にアンケートを行い、連絡の取りやすい方法や時間を医院ごとに調査し一覧表にしている。これを在宅介護支援センターと包括支援センターで共有している。

●医療機関の情報を住民に伝える方法

- ・相談可能な医療機関を住民に広く知ってもらうために、医療機関の窓口に認知症の相談可能なことを明記したステッカーを貼ってもらっている。また、在宅介護支援センターと包括支援センターの案内チラシを窓口に置いてもらっている。